いつまでもわたしらしく
夢追い人

新しく始められることがあるって、ワクワクします。

シニア劇団「すずしろ」

60歳から入団できるシニア劇団「すずしろ」。大阪府箕面市を拠点に、第一線を引退したシニアの皆さんが、自ら企画・運営しながら活動を続けています。「演劇なんて初めて」というメンバーも多数。皆さん、イキイキしながら新たな挑戦を楽しんでいらっしゃいます。

Profile
シニア劇団「すずしろ」
2004年誕生の「すずしろ」。代表の秋田啓子さんが箕面市に掛け合って発足させた市民講座「60歳からの演劇入門」がその母体です。もちろん常時メンバー募集中。12月には第11回本公演「光る時間」（作・渡辺えり）を公演予定。

夢の挑戦に年齢は関係ない

「ブラボー！」

ニューヨーク・ブロードウェイの劇場は、満員の観衆によるスタンディングオベーションで埋め尽くされました。舞台には「すずしろ」メンバーの紅潮した顔。「60歳を過ぎてこんな夢がかなうなんて！」と、誰の心も達成感で一杯です。劇団が誕生して6年の、２０１０年のことでした。

「すずしろ」という名前は、自分たちは〝大根役者〟という気持ちを込めてつけられました。そんな素人集団が本場・ブロードウェイで自主公演を成功させたのですから、大きな快挙です。

「一生に一度くらい夢を見てもいいんじゃないかと挑戦したニューヨーク公演。でも、欲が出てきて、2年後にまた挑戦するつもりです」と代表の秋田さんは笑います。

自分の居場所がある喜び

劇団「すずしろ」を旗揚げして団員を募集したとき、希望者が殺到して驚いたと、秋田さんは振り返ります。

「仕事を終えた人、子育てを終えた人…。60歳を過ぎると、誰もが何かを終えてしまった人になるんです。みんな、新しく何かを始める場所を探しているんですね」（秋田さん）

やりたい人が入り、辞めたい人は辞めればいい、舞台には全員が立つ、というルールでスタートした「すずしろ」。実際、病気になったり、老老介護に直面したりと、それぞれの事情で劇団を去る人もいました。一方で新しく加入する人も相次いで、メンバーはだいぶ入れ替わりましたが、〝何かに挑戦したい〟という想いは皆さんに共通しています。

「どうしても入りたくて、広島から〝入れて欲しい〟と電話したんです」という方もいれば「60歳になるのが待ちきれなくて、58歳でフライング入団しました」と照れ笑いする方も。

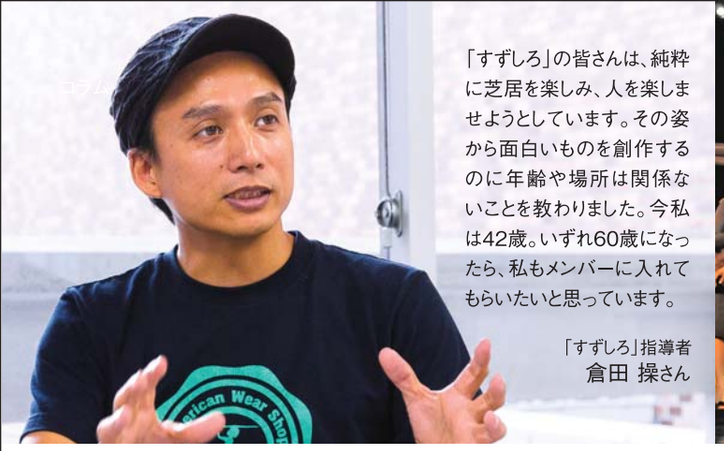
「週一回のお稽古が本当に楽しみです。退職後、自分の居場所があるっていうのは幸せなことだと思います」

「ずっと憧れつもあきらめていたお芝居。なのに60歳を過ぎて人生で一番やりたかったことに再挑戦できるなんて」と、皆さん、本当に楽しそうにお話しされています。

シニアだからできる演技がある

「すずしろ」に欠かすことのでき

「すずしろ」代表　秋田 啓子さん



「すずしろ」の皆さんは、純粋に芝居を楽しみ、人を楽しませようとしています。その姿から面白いものを創作するのに年齢や場所は関係ないことを教わりました。今私は42歳。いずれ60歳になったら、私もメンバーに入れてもらいたいと思っています。

「すずしろ」指導者
倉田 操さん

2014年 10周年記念公演 オリジナル作品「葉ごろも」

2010年 ニューヨーク公演「○○○○○○○」

2018年 2月公演「バック・トゥ・ザ・ラインボー」

ないキーマンが、プロの役者の倉田操さん。指導者として劇団の創設以来、携わってこられました。

「東京で役者の仕事をしていたときも、〝新幹線代を払うから指導を続けて〟と秋田さんに頼まれて、続けることに。そのうち、私の方が指導を通じてみなさんから元気をもらっているんだということに気がつきました」（倉田さん）

倉田さんによれば、「すずしろ」のメンバーは演劇については素人であっても、豊富な人生経験を持っているからこそ表現できるものがあるそうです。そのパワーを分けてもらうことで、プロである倉田さんも大きな刺激を受けているようです。

ブロードウェイ公演は、その倉田さんが映画関係者に「すずしろ」のことを話したときに出た「ウソでもいいからブロードウェイ公演を目指したら」という言葉がきっかけでした。話を聞いた秋田さんもブロードウェイ公演という夢に共感。「できっこない」「海外旅行も経験ないのに」と最初は尻込みしていたメンバーも、次第にその気になっていきました。

セリフを覚えるのは、誰でも苦手。だから間違えてもちっとも気にしません。真剣に、だけど楽しく、稽古を重ねながら、みんなの力で少しずつお芝居をつくりあげていきます。

「どうせなら英語でやろうと倉田さんが言い出したときは〝何言うてんねん、この人〟と呆れましたが、倉田さんの熱に引きずられて、みんなで英語の台詞をマスターしました」（秋田さん）

そして、さまざまな伝手をたぐり、文字通り〝瓢箪から駒〟のように実現したニューヨーク公演。劇場は超満員で、冒頭に紹介したように、大成功に終わりました。

〝自分も頑張ろう〟と思って欲しい

「60歳を過ぎてから初めてのことに挑戦するって、ワクワクしますよ」と秋田さん。

メンバーも「セリフとか登場人物の名前とか、新しく覚えることが多いのは楽しい」「この年になっても、できなかったことができるようになるんですよ」とイキイキと話してくれました。

ニューヨーク公演では、地元在住の日本人が忘我の涙を流して喜んでくれたそうです。その様子を見た秋田さんは、ある新しい〝気づき〟が生まれたと言います。

「私たちシニアにはシニアだからできるミッションがあり、社会的意義があると気づいたんです。私たちがこうして頑張っている姿を見て、同じような年齢の方が自分も頑張ろうと思ってくれて、若い世代の方も元気になってくれる。70歳、80歳になっても新しいことに挑戦できるんだと伝えることが、私たちのミッションなんです」

「すずしろ」の挑戦は、これからも続きます。

稽古の前のウォーミングアップ。ストレッチから始まり、体幹トレーニング、発声練習とみっちり2時間。

シニア劇団「すずしろ」に関するお問合せは下記までご連絡ください

箕面市立メイプルホール
TEL:072-721-2123　FAX:072-721-0495
代表:秋田 啓子　携帯:090-6245-1807
E-mail:sakurasoya@leto.eonet.ne.jp

ブログ 劇団「すずしろ」日記 検索

劇団「すずしろ」第11回本公演

渡辺えり作「光る時間」箕面市メイプル小ホール
12月1日（土）・2日(日) 両日共11時、15時公演